

- 平成24年度補正予算(平成25年2月26日成立)において、廃炉に関する技術基盤を確立するため、①遠隔操作機器・装置の開発実証施設(モックアップ試験施設)、②放射性物質分析・研究施設の整備費として、850億円を(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)へ出資。
- モックアップ試験施設については、平成25年5月に、立地地点を楢葉町楢葉南工業団地内に決定。平成27年度の運用開始を目指し、本年9月から建設工事に着工。同月に行われた起工式には、高木経済産業副大臣他が出席。正式名称は「楢葉遠隔技術開発センター」。
- 分析・研究施設については、平成26年6月に、立地候補地を福島第一原発の隣接地に決定。着工に向けて建設計画を策定中。

モックアップ試験施設

試験棟

遠隔操作機器 実証試験エリア

原子炉建屋内を模擬した障害物等を設置し、調査、除染等に必要な遠隔操作、ロボットの実証試験や運転員の訓練等を実施。

PCV下部補修 実証試験エリア

格納容器下部の実寸大模型を設置し、漏えい箇所を調査・補修するロボットの実証試験や運転員の訓練等を実施。

研究管理棟



楢葉遠隔技術開発センター
完成予想図

